

平成19年度全国合同輸血療法委員会成果報告会議次第

平成19年9月13日(木)
15:45~16:45
中央合同庁舎5号館低層棟2階講堂

1	開 会		15:45
2	挨拶 厚生労働省	血液対策課課長補佐 武末 文男	15:45~(5分間)
3	報 告 (1) 神奈川県	東海大学医学部付属病院細胞移植再生医療科教授 加藤 俊一	15:50~(20分間)
	(2) 北海道	旭川医科大学病院臨床検査・輸血部副部長 紀野 修一	16:10~(20分間)
4	質 疑		16:30~(15分間)
5	閉 会		16:45

配布資料

- 資料1 平成18年度 血液製剤使用適正化方策調査研究事業 研究結果概要一覧
- 資料2 成果報告(1) 神奈川県
- 資料3 成果報告(2) 北海道

No.	都道府県名	研究代表者(所属)	研究課題名	研究結果概要	工夫した点、苦労した点等
1	北海道	紀野 修一 (旭川医科大学病院臨床検査・輸血部副部長)	北海道における血液製剤の適正使用に係る取り組みについて	<p>○ 平成17年12月～平成18年3月 血液製剤適正使用に係るアンケート調査を行った。(第1回)</p> <p>○ 平成18年11月～12月 血液製剤適正使用に係るアンケート調査を行った。(第2回)</p> <p>○ 平成18年11月 北海道合同輸血療法研修会を開催した。</p> <p>○ 平成19年2月 第86回北海道外科学会の診療トピックスとして「血液製剤の使用指針について」講演を行った。</p>	<p>○ 本来の合同輸血療法委員会は、都道府県が組織した委員会にすべきところではあるが、委員会設置の根拠が通知であり、法律上の設置根拠がないことから、予算措置できず、委員会が設置できなかった。</p> <p>委員会が設置できないことから、研究代表者が中心となり、北海道、北海道赤十字血液センター、医療機関の代表者で基本的には経費をかけずに委員会を組織し、その委員会が中心となり、道内で血液製剤の使用量が多い医療機関を参集して、適正使用の理解を得るため、研修会を開催した。</p>
2	青森県	立花 直樹 (青森県立中央病院輸血部長)	適正で安全な輸血療法実現のための協力体制の構築	<p>○ 平成18年 7月18日 青森県合同輸血療法委員会開催を決定し、世話人を決定した。</p> <p>○ 平成18年 9月15日 第1回青森県合同輸血療法委員会世話人会を開催した。</p> <p>○ 平成18年 10月12日 第2回青森県合同輸血療法委員会世話人会を開催した。</p> <p>○ 平成18年 10月30日 第1回青森県合同輸血療法委員会会議を開催した。</p> <p>○ 平成18年11月 医療関係者における情報の共有について、青森県合同輸血療法委員会のホームページ及びメーリングリストを作成し活動を開始した。</p> <p>○ 平成18年11月～19年3月 青森県合同輸血療法委員会による平成18年度血清保管に関するアンケート調査と解析を行った。</p> <p>○ 平成18年11月～19年3月 青森県地区拠点病院におけるI&Aチェックリスト回答内容の解析を行った。</p> <p>○ 平成19年 1月24日 第3回青森県合同輸血療法委員会世話人会を開催した。</p> <p>○ 平成19年 3月 6日 第4回青森県合同輸血療法委員会世話人会を開催した。</p> <p>○ 平成19年 3月17日 第2回青森県合同輸血療法委員会会議を開催した。輸血関連感染症対策：適正な輸血療法に関する講演会を開催した。(一般講演 4題、特別講演 1題)</p> <p>○ 平成19年 3月 28日 第5回青森県合同輸血療法委員会世話人会を開催した。</p>	<p>○ 合同委員会立ち上げに際して、効率よく活動を行う事を当初考慮して参加病院を選定した。即ち、青森県内の地域拠点病院を中心に県全体をカバーするように地域バランスを考えた結果、いずれも県内広域医療圏地区から満遍なく募ることとした(青森地区2病院、中弘南黒地区2病院、西北五地区1病院、上十三地区1病院、八戸南部地区2病院、下北地区1病院)。その結果、青森市、八戸市、弘前市のように比較的規模の大きい病院が集中している地域では、委員会への参加が見送られた病院もあった。次年度の活動においては、より多くの病院が参加できるよう検討することとした。</p> <p>○ 活動を実施するに当たり、委員会を開催し活動目的・方針を再確認し、県内医療機関の輸血療法の実状把握と県内医療機関への啓蒙(輸血関連感染症対策として、輸血前後検査の実施状況の紹介等)を今年度の目標と決定し、アンケート調査を行った。当初、アンケートの回収が思うようにいかず、病院長から実施部門に伝わっていない医療機関もあったため、再度郵送による依頼や直接電話による依頼を行った。</p> <p>○ 講演会開催に際して、医療関係者が出席しやすいように地元医師会、薬剤師会、臨床検査技師会の協力を依頼し共催を要請した。通常、医師会等の共催・後援を得るには、先ず地域医師会の了解を得た後、県医師会の承認を必要とする。今回の講演会開催においては、当合同委員会の実績が無く社会的認知度が低く、公的な団体としての証明もないので、医師会や薬剤師会の後援等を取り付けるには、医師会や薬剤師会の理事に活動趣旨を説明し、了承を取り付ける等の苦労もあった。更に、企画時期が遅かった為、医師会に対して、無理をお願いして後援を取り付けた経緯もあった。</p>
3	秋田県	面川 進 (秋田大学医学部附属病院輸血部講師)	合同輸血療法委員会による外部評価(I&A)を活用した血液製剤の適正使用推進	<p>○ 9月～10月、秋田県の輸血の実態調査のためのアンケート調査(血液製剤使用状況定期調査及び危機的出血時の輸血体制について)を実施した。</p> <p>○ 11月27日、秋田県庁第二庁舎にて、平成18年度、第9回秋田県合同輸血療法委員会を開催し、秋田県の輸血の実態調査のためのアンケート調査結果の報告、危機的出血時の輸血体制についての調査結果の報告を行った。また、輸血管理料をテーマとする特別講演と、県内医療機関6施設からの取り組み事例について報告を求め、討論会を実施した。</p> <p>○ 12月26日、県庁合同庁舎において、保健所及び献血推進担当者の会議に、合同輸血療法委員会委員を2名派遣し、400mL献血の推進と適正使用について、医療機関の現状を報告した。</p> <p>○ 平成19年2月9日、Y総合病院を、2月28日、N総合病院を、3月7日、O病院をそれぞれI&A実施を目的に視察した。</p>	<p>○ 合同輸血療法委員会によるI&A受諾施設を見つけるのに苦労した。輸血管理料に関する討論では、輸血管理料1を申請している施設が県内で1施設のみであったことから、取り組み状況を報告できる施設が少なく、事例を集めるのに苦労した。</p> <p>○ 適正使用を促進するにあたり、合同委員会の議事内容を映像化し、出席できなかった施設に配布できるように、工夫した。</p> <p>○ 平成9年から実施している秋田県合同輸血療法委員会での輸血実態調査を継続することができて、輸血実態の定点観測が行うことができた。これは、血液適正使用における効果が大きく、今後も継続すべきことと考えられその実施母体の構築が検討課題と思われた。</p>

No	都道府県名	研究代表者(所属)	研究課題名	研究結果概要	工夫した点、苦勞した点等
4	神奈川県	加藤 俊一 (東海大学医学部付属病院 細胞移植再生医療科教授)	神奈川県合同輸血療法委員会の実施	<p>○ 平成18年9月14日～ 実態調査開始</p> <p>1. 3つの領域における血液の使用状況の調査(造血細胞移植領域、心臓血管外科領域(3術式)、消化器外科領域(5術式)について、血液の使用数、輸血開始のトリガー値、自己血使用の有無等、詳細な調査を実施)</p> <p>2. 輸血管理料への取組状況の調査(神奈川県内の血液製剤を使用している主たる医療機関(238施設)に輸血管理料の申請状況、管理料を申請するにあたってクリアできない施設基準、輸血管理料の基準に対する意見等を調査)</p> <p>○ 平成18年9月30日 第123回日本輸血・細胞治療学会関東甲信越支部例会 演題発表</p> <p>○ 平成18年12月21日 世話人会開催</p> <p>○ 平成19年1月13日 平成18年度神奈川県合同輸血療法委員会(全体会合)の開催(259名参加のもと、実態調査結果を報告した。)</p>	<p>○ 全体会合に多くの医療機関関係者(特に医師)に参加していただけるようなテーマ選び</p> <p>○ アンケートの作成、回収、分析</p> <p>○ 会場の確保</p> <p>○ 事業運営費用</p>
5	新潟県	小池 正 (長岡赤十字病院血液内科部長)	新潟県内の医療機関における輸血用血液の使用量と病態に関する実態調査	<p>○ 9月2日、県内40医療機関に研究調査票と協力依頼文を送付し、調査を開始した。</p> <p>○ 9月8日、輸血量法管理ソフトの開発業務等の委託契約を締結した。</p> <p>○ 1月31日、新潟県合同輸血療法委員会を開催し、要綱と研究班の設置が承認された。</p> <p>○ 3月10日、新潟輸血研究会にて、調査研究の経緯と代表的5医療機関の集計状況が報告された。</p> <p>○ 4月9日、入力された35医療機関の集計を印刷し、血液対策課へ送付した。</p>	<p>○ 調査票の記入作業は難儀のため、調査期間を短くしてほしいと医療機関から要望された。</p> <p>○ 年齢、性別、疾患群、輸血前値等に空白や誤記入が多く、医療機関側の追記、修正を要した。</p> <p>○ 手書き情報をコンピュータに転記・入力する血液センターの作業には、長時間を要した。</p> <p>○ 医療機関の情報中、患者番号と名前は代替伏字に変換し、血液センターへメールできるようにした。</p> <p>○ エクセルのピボット機能により、患者属性、疾患群、トリガー値等が瞬時に表示された。</p> <p>○ 輸血情報のコンピュータ入力が医療機関の日常業務になるためには、詳細な条件設定が必要である。</p>
6	静岡県	長田 広司 (静岡県輸血懇話会会長)	静岡県合同輸血療法委員会の活動による血液製剤適正使用の推進	<p>○ 平成18年5月20日(土)、日本赤十字社静岡県支部にて平成18年度第1回静岡県合同輸血療法委員会を開催した。</p> <p>○ 平成18年8月4日(金)、静岡赤十字病院にて平成18年度第2回静岡県合同輸血療法委員会を開催した。</p> <p>○ 平成18年11月1日(水)、ホテルアソシア静岡ターミナルにて平成18年度第3回静岡県合同輸血療法委員会を開催した。</p> <p>○ 平成18年11月7日(火)、血液製剤適正使用に関するアンケート調査を50医療機関に実施した。</p> <p>○ 平成19年2月24日(土)、静岡ペルアージュにて静岡県内輸血療法委員会委員長会議を開催した。</p>	<p>○ 静岡県における血液製剤適正使用促進のため、静岡県内輸血療法委員会委員長会議を講演会形式ではなく、アンケート結果に基づくディスカッションを行う場として設けた。</p>
7	三重県	南 信行 (神原温泉病院副院長)	血液製剤適正使用の全県的推進	<p>○ 9月28日、いなべ総合病院においてI&Aを実施した。</p> <p>○ 11月24日、12月8日に主として四日市市、松阪市地区の病院を対象として「アルブミン製剤の適正使用にむけて」と題して秋季研修会を開催した。</p> <p>○ 2月23日、川口市立病院救命救急センター長の小関一英先生をお招きして、三重県内医療機関を対象に「血液製剤使用削減の取り組み」と題して冬季講演会を開催した。</p> <p>○ 3月、県内の医療機関の検査技師を対象に輸血療法に関するアンケートを実施し、一元管理や輸血バッグの保存などに加え、輸血管理料取得に関しても調査した。</p>	<p>○ I&Aについては、療法委員会から実施病院と何度も摺り合わせを重ね、実施病院における輸血療法委員会活動の充実、医師への適正使用の啓蒙を重視すること等の呈示を行った。</p>
8	滋賀県	苗村 光廣 (滋賀県健康福祉部技監)	血液製剤適正使用推進	<p>○ 平成19年3月14日 滋賀県大津合同庁舎にて平成18年度第1回合同輸血療法委員会を開催した。</p> <p>○ 平成19年3月24日 コラボしが21にて平成18年度血液製剤使用適正化のための研修会を開催した。</p> <p>○ 平成19年3月24日 コラボしが21にて平成18年度第1回合同輸血療法委員会部会を開催した。</p>	<p>○ 本事業を行うことが決まってから合同輸血療法委員会を立ち上げて委員会等を開催したため、時間的余裕がなく、当初予定していた回数の会議等を開催することができなかった。</p>
9	京都府	藤井 浩 (京都府赤十字血液センター所長)	京都府における血液製剤使用適正化方策の検討	<p>○ 11月14日、ばるるプラザにて平成18年度第1回京都府合同輸血療法委員会を開催した。</p> <p>○ 2月7日、キャンパスプラザ京都にて平成18年度第2回京都府合同輸血療法委員会を開催した。</p> <p>○ 3月3日、京都府赤十字血液センターにて「血液製剤の使用適正化講演会」を開催した。</p>	<p>○ 多忙な先生方が多く開催日程の調整に苦勞した。</p> <p>○ 委託費の使用制限が多く、会場費に使用できない等、使用した経費がほとんど委託費として請求できなかった。</p> <p>○ 報告書提出期限まで時間が短く、作成に苦勞した。</p>

No.	都道府県名	研究代表者(所属)	研究課題名	研究結果概要	工夫した点、苦労した点等
10	奈良県	藤村 吉博 (奈良県立医科大学輸血部教授)	血液製剤、特にアルブミンの適正使用について	<ul style="list-style-type: none"> ○ 平成18年11月2日(木)、奈良県赤十字血液センターにて平成18年度第1回奈良県合同輸血療法委員会を開催した。 ○ 平成19年2月に、血液製剤・血漿分画製剤適正使用に関するアンケート調査を行った。 ○ 平成19年3月16日(金)、郡山城ホールにて、血漿分画製剤の適正使用(演題:「アルブミンの適正使用:我が国の実態と使用量削減の必要性」・「輸血管理料と医療機関での取り組み」・「アルブミンの適正使用:保健医療の立場から」)に関する講演会を県内全医療機関対象に開催した。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 講演会を開催するにあたり、輸血担当医師、技師、薬剤師に適正使用の趣旨を理解していただくため、いかに多く講演会に参加していただくか、医療機関に対する周知・説明等大変苦労した。
11	香川県	内田 立身 (香川県赤十字血液センター所長)	香川県内における血液製剤の使用状況ならびに使用適正化方策推進にかかる調査研究	<ul style="list-style-type: none"> ○ 7月16日、香川県合同輸血療法委員会の立ち上げ設置要綱を定めた。 ○ 3月17日、香川県社会福祉総合センターにて、第3回合同輸血療法委員会を開催した。 ○ 2月13日より、血液製剤使用適正化推進のためのアンケート調査を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 合同輸血療法委員会に参画していただく施設の選定と、同意を得ること。委員長レベルでは、理解していただき参加していただいた。 ○ 問題点として使用量の少ない施設にあつては、適正使用の推進に程遠い所もあつて、輸血医療に格差を生じている。これらの施設に対する働きかけが今後の課題。 ○ 初めてのため予算をいかなる事業にあててよいか不明であつた。今後、講演会などの開催で理解を深めたい。
12	福岡県	佐川 公嬌 (久留米大学医学部附属病院教授)	福岡県内100病院における輸血管理料の取得状況と今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2006年8月5日、福岡県輸血療法委員会合同会議の打ち合わせ会を開催した。調査研究方法(アンケート調査項目)を取り決めた。 ○ 2006年10月初旬に福岡県内の対象医療機関101病院にアンケート調査表を配布し、10月下旬に回収して解析作業を行った。 ○ 2006年11月7日、第10回福岡県輸血療法委員会合同会議を開催した。約100病院の輸血責任医師及び輸血責任技師が参加した。この会議でアンケート調査結果を公表した。 ○ 2007年6月、「福岡県輸血療法委員会合同会議10年の軌跡」を発刊した。この中には、1997年第1回福岡県輸血療法委員会合同会議から2006年第10回合同会議までの10年間の調査研究データおよび活動記録(講演会記録など)を掲載した。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 福岡県内に赤十字血液センターから輸血用血液が供給されている病院は610病院あるが、アンケート調査を依頼した101病院で福岡県全体の約92%の輸血用血液を使用していることが判明した。したがって、この101病院の輸血療法を適正化することによって福岡県全体の輸血療法が適正化することが分かった。 ○ 福岡県輸血療法委員会合同会議には、対象病院の病院長ないしは副院長の参加を要請した。これは、病院全体に影響を持つ医師に輸血療法の適正化を理解してもらうための工夫である。 ○ アンケート集計結果報告は、分かりやすい形で行った。 ○ 上記事業を10年間継続することによって、福岡県全体の輸血療法の適正化が進展していると考えられる。

※各都道府県の研究結果については、報告書を <http://www.mhlw.go.jp/new-info/kobetu/iyaku/kenketsugo/2f/index.html> に掲載しておりますので、詳細はそちらを御覧ください。

合同輸血療法委員会成果報告

(1) 神奈川県

(東海大学医学部付属病院細胞移植再生医療科
教授 加藤 俊一)

神奈川県における合同輸血療法委員会の
活動状況

東海大学医学部付属病院細胞移植再生医療科
加藤 俊一
神奈川県血液センター所長
稲葉 頌一

2007.9.13 全国合同輸血療法委員会成果報告会

発足に際して問題となった点

- 既存の「神奈川輸血研究会」との関係をとどのようにするか
 「研究会」は学術的な場として存続させる
 「合同委員会」は適正輸血推進の場で、
 医療機関・血液センター・行政の**合同委員会**であり、
 各医療機関の輸血療法委員会の**合同委員会**でもある
- 神奈川県衛生部は当初「合同委員会」の一員となること
 にやや消極的であった
 一県の立場に配慮し、国(厚生労働省)が直接関与して
 バランスを取ることにした

2007.9.13 全国合同輸血療法委員会成果報告会

【設立状況と活動報告】

発足準備委員会 2006.3.11

内容

- 要綱の検討、世話人選出
- 事務局選定
 (神奈川県赤十字血液センター医薬情報課)
- 活動方針の検討
- 県内における血液供給状況

2007.9.13 全国合同輸血療法委員会成果報告会

• 世話人内訳

東海大学医学部付属病院 (代表 加藤俊一)
 北里大学病院 昭和大学藤が丘病院
 聖マリアンナ医科大学病院 帝京大学医学部附属浦口病院
 横浜国立大学附属病院
 神奈川県立がんセンター 神奈川県立こども医療センター
 (平成18年度 横須賀共済病院 小田原市立病院)

神奈川県薬務課長
 赤十字血液センター 所長

• アドバイザー

厚生労働省 東京大学医学部附属病院 日本赤十字社血液事業本部
 静岡県赤十字血液センター (財)血液製剤調査機構

2007.9.13 全国合同輸血療法委員会成果報告会

2005年 5月11日 委員会第1回世話人会開催

- ・代表世話人選出、世話人追加選定
- ・要綱の確定
- ・活動内容(実施要領)の検討
- ・施設別血液供給状況の紹介・分析

2005年 6月 9日 委員会第2回世話人会開催

- ・活動内容(実態調査)の検討
- ・分析評価方法の検討
- ・全体会合の日時・場所の確定



2005年 9月30日 実態調査(アンケート方式)開始

2005年11月30日 委員会第3回世話人会開催

- ・実態調査結果の解析
- ・全体会合内容の検討

2006年 1月14日 全体会合(神奈川県民ホール)

2007.9.13 全国合同輸血療法委員会成果報告会

2006年 1月14日 全体会合(神奈川県民ホール)




2007.9.13 全国合同輸血療法委員会成果報告会

実態調査の概要(アンケート)

神奈川県内の

- 輸血管理体制の把握
 - 委員会を設置しているか?構成メンバーは?使用量の多い科が参加しているか?等
- 施設毎の使用量把握
 - 診療科別の使用量は?造血幹細胞移植科、血漿交換療法件数は?等

⇒ 施設間比較を実施し課題・問題点を明確にする

※回収率を上げるため県の系え状を同封
病院協会、医師会の支援も得た

2007.9.13 全国合同輸血療法委員会成果報告会

実態調査の対象及び回収結果

- 対象：平成16年度に輸血用血液製剤を供給した神奈川県内の
20床以上の医療機関 296施設
- 回収期間：平成17年8月30日～11月10日
- 回収数：178施設
- 回収率：60.1%
- 供給占有率：RBC：84.4% FFP：90.6% PC：91.4%
ALB：?% FFP/MAP：0.54

2007.9.13 全国合同輸血療法委員会成果報告会

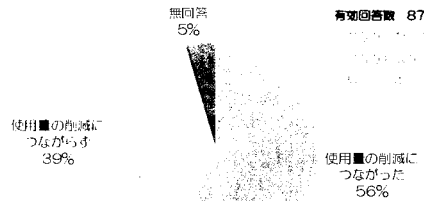
輸血療法委員会の設置状況 (n=178)

いいえ 49%
はい 51%

まだ半数程度

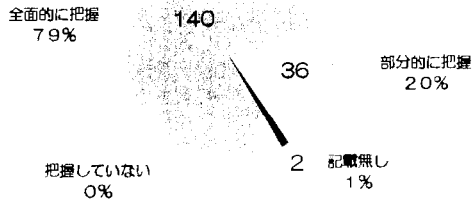
2007.9.13 全国合同輸血療法委員会成果報告会

委員会活動によって輸血量の削減が図られましたか？



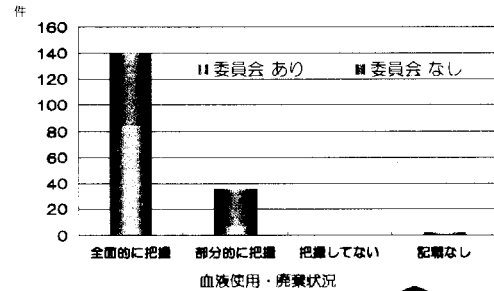
2007.9.13 全国合同輸血療法委員会成果報告会

使用状況・廃棄状況の確認 (n=178)



2007.9.13 全国合同輸血療法委員会成果報告会

院内の血液廃棄状況把握 (n=178)



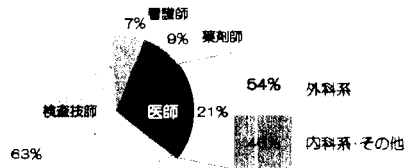
2007.9.13 全国合同輸血療法委員会成果報告会

「平成17年度 神奈川県合同輸血療法委員会」出席状況

参加者：240名

医師50名、薬剤師21名、検査技師152名、看護師17名

〔医師の所属科：外科系27名、内科系・その他：23名〕



2007.9.13 全国合同輸血療法委員会成果報告会

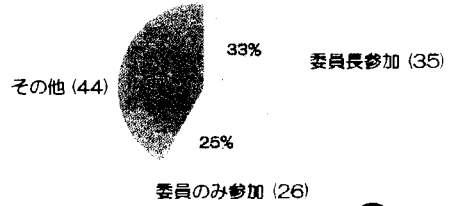
神奈川県合同輸血療法委員会

参加医療機関数：105施設

輸血療法委員会 委員長の参加：35施設(35名)

委員のみ参加：26施設(73名)

合計：61施設(108名)



2007.9.13 全国合同輸血療法委員会成果報告会

神奈川県合同輸血療法委員会

平成17年度神奈川県合同輸血療法委員会の集計結果

高い集計結果が得られた。(県主導の効果?)

- 輸血療法委員会の設置率は低かった。
- 廃棄率の把握はよくできていた。
- アンケートに回答できた病院の使用血液量赤血球把握率 >80%

2007.9.13 全国合同輸血療法委員会成果報告会

神奈川県合同輸血療法委員会

【まとめ】

合同輸血療法委員会を運営するに当たって、県、医療機関、血液センターの協力が不可欠である。今回、県の文書によりアンケートへの協力が得られ輸血管理体制の現状把握が可能となった。

医療機関も輸血のシステム管理が進みデータの抽出が出来る体制が整ってきている。

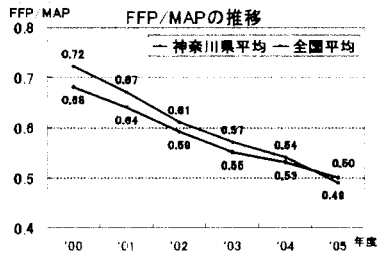
他施設との比較により自施設の問題点、課題が明らかになり適正使用の推進に役立つ。また問題の共有化により新しい解決策が見つかることも考えられる。

18年度は、具体的に診療科、術式を絞って輸血状況を調査し施設間比較を行う予定である。また、ホームページを作成し、いつでも調査結果を閲覧できるよう検討することになった。

2007.9.13 全国合同輸血療法委員会成果報告会

神奈川県合同輸血療法委員会

平成17年度の神奈川県内のFFP/MAP



2007.9.13 全国合同輸血療法委員会成果報告会

神奈川県合同輸血療法委員会 平成18年度活動状況

2007.9.13 全国合同輸血療法委員会成果報告会

平成18年度 神奈川県合同輸血療法委員会
於：横浜市教育文化ホール
「神奈川県内の適正使用を進めるために」

輸血管理料について

厚生労働省 医薬食品局 血液対策課
武末 文男

2007.9.13 全国合同輸血療法委員会成果報告会

神奈川県合同輸血療法委員会
平成18年度アンケート調査
—消化器外科領域—

平成19年1月13日
帝京大学医学部附属溝口病院外科
村田宣夫

2007.9.13 全国合同輸血療法委員会成果報告会

目的

- 神奈川県内各医療機関における血液製剤使用の実態について調査し、比較検討の材料を得て、これを参考に血液製剤のより適正な使用を促すことを目的とする。

2007.9.13 全国合同輸血療法委員会成果報告会

神奈川県血液センター

アンケート対象

- 平成17年度血液供給数上位30施設のなかで消化器外科手術実施の28施設とそれ以外の消化器専門医認定施設27施設、合計55施設
- 回収は35施設からあった。
- 回収率64%

2007.9.13 全国合同輸血療法委員会成果報告会

神奈川県血液センター

調査項目

- 自己血輸血実施の有無と対象手術
- 術前と術中の輸血開始の基準
- 輸血実施の決定者
- 術中赤血球輸血率(平成17年度)
- 術中FPI輸血率
- 術中アルブミン製剤輸血率
- 輸血症例毎のアンケート

調査対象期間: H17・4・1～H18・3・31

2007.9.13 全国合同輸血療法委員会成果報告会

神奈川県血液センター

まとめ

- 神奈川県下の55施設に対して消化器外科手術における輸血の実態調査を行った。アンケートの回収率は64%であった。
- 自己血輸血の実施を積極的に行っている施設が9施設あった。
- 周術期の輸血は概ね、輸血ガイドラインに沿って適切におこなわれていたと考えられる。
- 今後、さらに広く適正な輸血が行われるよう各方面の努力が必要である。

2007.9.13 全国合同輸血療法委員会成果報告会

神奈川県血液センター

平成18年度
神奈川県合同輸血療法委員会
アンケート調査解析結果報告

心臓血管外科領域

北里大学病院
大谷慎一・小原邦義

2007.9.13 全国合同輸血療法委員会成果報告会

<アンケート調査対象医療機関>

- 心臓血管外科専門医認定機構認定修練施設 (27施設)
- 平成17年度供給単位数の上位30医療機関 (11施設)
- 合計38施設
調査期間：平成17年4月1日～平成18年3月31日
- 合計35施設(手術数当り1施設を除く)中22施設回収
— 回収率62.9%

2007.9.13 全国合同輸血療法委員会成果報告会

<総括-1>

- アンケート回収率は62.9%(22/35施設)
- 自己血輸血は9割以上の施設で実施
- 術中輸血の赤血球輸血の基準は11b7~8 g/dl以下および7g/dl以下の施設が5割以上を占めた
- 術中輸血の決定者は8割以上の施設で術者と麻酔医が相談して決定

2007.9.13 全国合同輸血療法委員会成果報告会

<総括-2>

- MAP、FEPの術中輸血率は胸部大動脈瘤>人工弁置換術>冠動脈バイパス術の順に多かった
- 術中輸血でのFEP/MAP比は胸部大動脈瘤1.11>人工弁置換術0.87>冠動脈バイパス術0.77であった
- 術中輸血でのAIB/MAP比は全て2.0未満であった

2007.9.13 全国合同輸血療法委員会成果報告会

<総括-3>

- 術式別にみた血液製剤投与直前検査実施率は赤血球製剤では8割以上、血小板製剤では6割前後であった
- 自己血と出血量との関係では、三術式ともに自己血完逐例で出血量が少なかった
- 県内における心臓血管外科領域の成人主要三術式の血液使用状況の概要が把握された

2007.9.13. 全国合同輸血療法委員会成果報告会

神奈川県合同輸血療法委員会

神奈川県合同輸血療法委員会 成人造血細胞移植領域 アンケート結果報告

東海大学医学部付属病院
吉場史朗

2007.9.13. 全国合同輸血療法委員会成果報告会

アンケートにご協力いただいた施設

- | | |
|----------------------|----|
| ■ 横浜市立大学附属市民総合医療センター | 17 |
| ■ 神奈川県立がんセンター(化学療法科) | 4 |
| ■ 神奈川県立がんセンター(血液科) | 25 |
| ■ 聖マリアンナ医大横浜西部病院 | 8 |
| ■ 聖マリアンナ医科大学病院 | 6 |
| ■ 横浜市立大学附属病院 | 4 |
| ■ 東海大学医学部附属病院 | 11 |

全6施設7診療科、合計75例

2007.9.13. 全国合同輸血療法委員会成果報告会

神奈川県合同輸血療法委員会

総論①: 血液製剤のトリガー

- 赤血球製剤→5施設がヘモグロビン値で7-8g/dlを目安にしている。2施設が6.5と7。
- 血小板製剤→4施設が2万/ μ lを保つようにしている、3万が2施設、1.2と1.3が1施設。
- 新鮮凍結血漿→フィブリノーゲン100以下またはPT・APTTの延長と回答したのが5施設、他に合併症で考慮が3施設、無が1施設。
- γ -グロブリン製剤→無しと回答した施設が3施設、あると回答した施設は400~500mg/dl以下を目安にしている。(移植後早期定期使用)

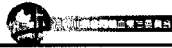
2007.9.13. 全国合同輸血療法委員会成果報告会

神奈川県合同輸血療法委員会

総論②: CMV陰性血の使用

- 使用基準: 回答があった5施設がすべて、ドナー、レシピエント共にCMV抗体価が陰性の時に使用すると回答。
- 実際に使用した症例は2施設で2例ずつ、合計4例。

2007.9.13 全国合同輸血療法委員会成果報告会



まとめ

- 移植後4週間以内の成人造血細胞移植における輸血製剤使用は概ね適正に行われていると考えられた
- γグロブリン製剤の使用については、今後その有効性・必要性に関しての検討を行い、γグロブリン製剤の適正使用指針を作成すべきである
- 今後の検討課題として、輸血回数や1回の輸血使用量、ならびに合併症との関連等の詳細な調査が必要である

2007.9.13 全国合同輸血療法委員会成果報告会



神奈川県内における血液製剤の適正使用 実践のための実態調査

「輸血管理科について」

平成19年11月13日
神奈川県合同輸血療法委員会事務局

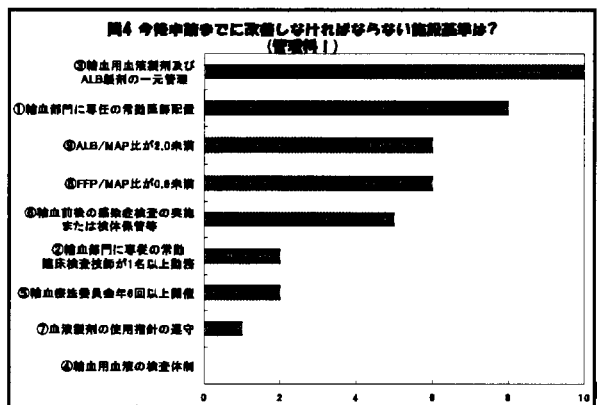
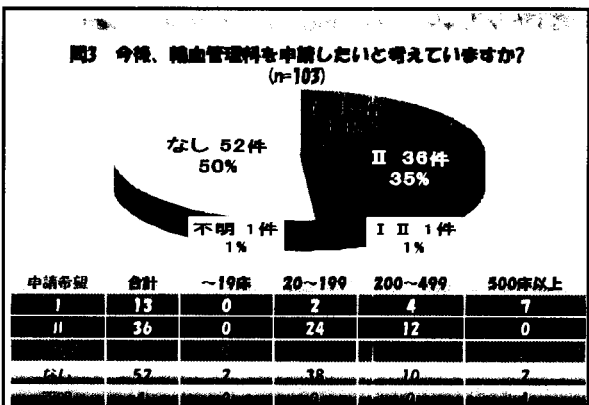
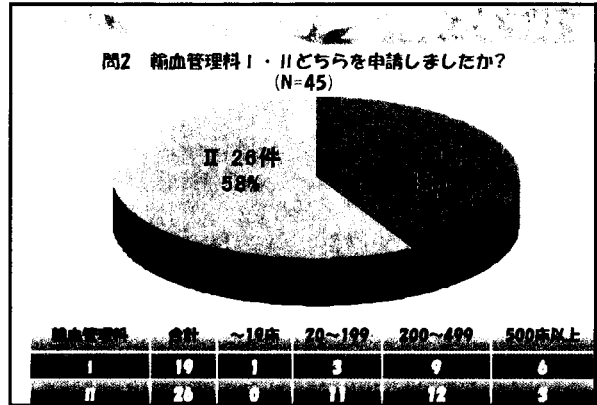
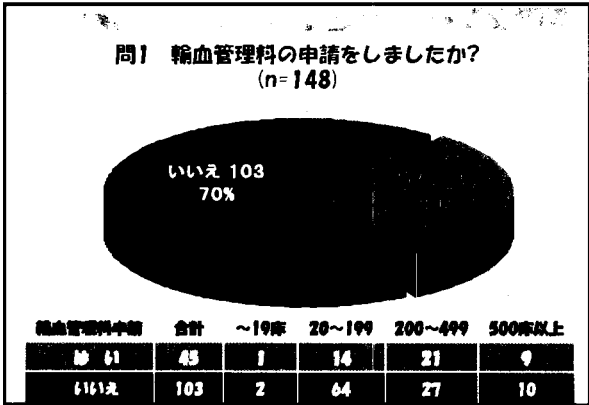
2007.9.13 全国合同輸血療法委員会成果報告会

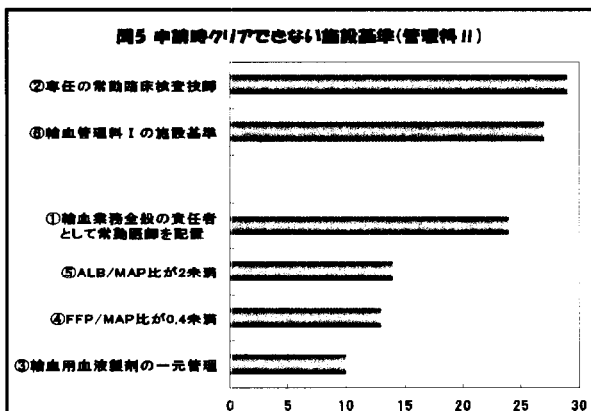
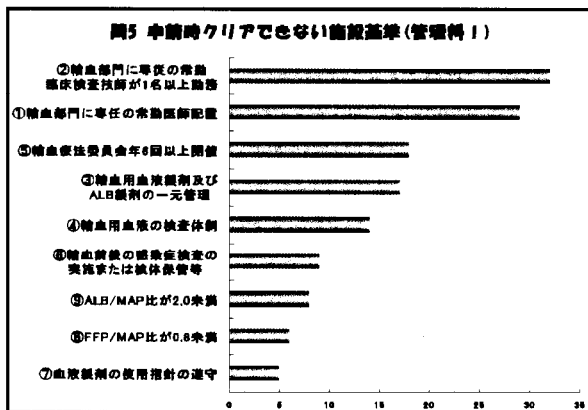
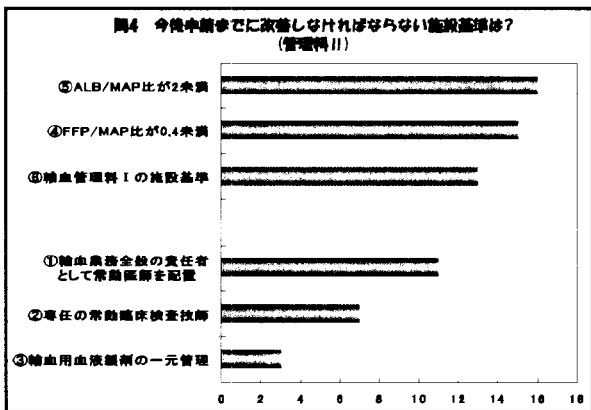
対象及び回収結果

- 対 象: 平成17年度に血液使用実績のある 283施設
病床数20床以上の施設 264施設
19床以下で年間100単位以上の実績のある施設 19施設
- 期 間: 平成18年9月11日～10月25日
- 回 収 数: 148施設
- 回 収 率: 52.30%
- 供給占有率: 75.12%
(RBC: 72.78%, FFP: 79.34%, PC: 75.33%)

2007.9.13 全国合同輸血療法委員会成果報告会







輸血管理科申請に向けての課題

- 1 輸血管理体制
- 2 アルブミン製剤の一元管理
- 3 輸血用血液検査体制
- 4 血漿交換とFFP/MAP比の問題
- 5 その他

2007.9.13 全国合同輸血療法委員会成果報告会

2. アルブミン製剤の一元管理

- 現在輸血管理料ⅡをとっているができればⅠを申請したい。ネットワークになっているのは、輸血用血液製剤のアルブミンの一元管理 (500床以上 管理料Ⅱ申請)
- アルブミンの一元管理。どこまで輸血で把握すればよいのか。 (500床以上 管理料Ⅰ希望)
- 輸血用血液製剤のアルブミン一元管理は将来的にも行うのは難しい (200床未満 管理料Ⅱ希望)

2007.9.13 全国合同輸血療法委員会成果報告会

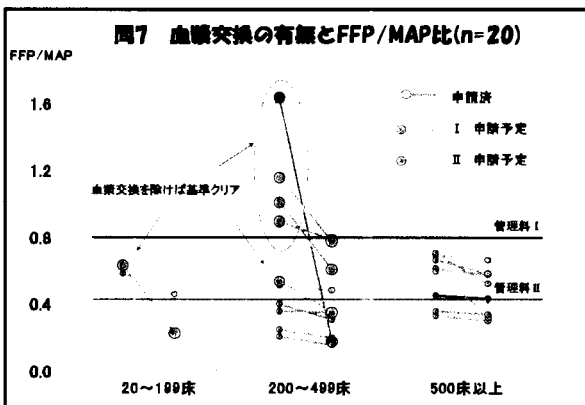
神奈川県合同輸血療法委員会

4. 血漿交換とFFP/MAP比の問題

- 血漿交換の有無でFFP/MAP比を考慮してもらいたい (500床未満 管理料Ⅱ希望)
- 血漿交換を別枠で考えて欲しい。H17のFFP/MAPは0.59であるが当院は血漿交換の症例が多く毎年0.8を大きく上回ってしまうため。 (500床以上 管理料Ⅰ希望)
- FFPの使用について血漿交換のとき多量使用分は別カウントして欲しい
 - ① FFP/MAP比について血漿交換を含むか、含まないか明記していただきたい。それによって施設基準がクリアできるかどうかも関係してくるため。
 - ② 適正輸血を心がけてMAP使用量は減少しています。この為ALB/MAP比が施設基準をクリアできない状況があります。難しいかもしれませんがこの部分を認めてもらえるような基準があればと思います。 (500床未満 管理料Ⅱ希望)

2007.9.13 全国合同輸血療法委員会成果報告会

神奈川県合同輸血療法委員会



2007.9.13 全国合同輸血療法委員会成果報告会

神奈川県合同輸血療法委員会

まとめ

- 神奈川県合同輸血療法委員会の平成17年度と18年度の活動状況を報告した。
- 「医療機関」と「血液センター」が「行政」の指導と協力の下に適切な血液製剤の使用を推進することができ始めたものと考えている。
- しかし、臨床の現場や病院経営者における輸血に対する認識をさらに変革する必要がある。

(2)北海道

(旭川医科大学病院臨床検査・輸血部 副部長 紀野 修一)

2007-9-13 厚生労働省

平成19年度全国合同輸血療法委員会成果報告会

北海道における血液製剤使用適正化に対する取り組み

- 北海道合同輸血療法委員会
紀野修一 旭川医科大学病院 臨床検査・輸血部
佐藤典宏 北海道大学病院 輸血部
山本定光 北海道赤十字血液センター
吉野邦夫 北海道保健福祉部保健医療局医療業務課

平成18年度血液製剤使用適正化方策調査研究事業助成
2007-9-13 平成19年度全国合同輸血療法委員会成果報告会 1

北海道における血液製剤適正使用に対する取り組み

- 平成4年4月24日 「血液製剤使用に係わる懇談会」設置
平成17年3月 「血液製剤使用に係わる懇談会」にて輸血療法委員会設置状況などに関するアンケート調査実施を決定
平成17年7月8日 北海道に対し、合同輸血療法委員会の設置を要請
平成17年12月～平成18年2月 輸血療法委員会等の設置状況調査
平成18年3月 「血液製剤使用に係わる懇談会」にて北海道合同輸血療法委員会開催を決定
平成18年7月 平成18年度血液製剤使用適正化方策調査研究事業に応募
平成18年11月18日 平成18年度北海道輸血療法研修会開催
平成19年2月10日 北海道外科学会にて適正使用について講演
平成19年3月 「血液製剤使用に係わる懇談会」にて合同輸血療法研修会開催継続を決定

2007-9-13 平成19年度全国合同輸血療法委員会成果報告会 2

「血液製剤使用に係わる懇談会」 平成4年4月24日

- 懇談事項
血液製剤使用適正化の推進に関すること
血液製剤の使用についての問題点を整理、検討し、その結果を基にして、血液製剤の使用のあり方についての医療関係者の理解を高めること
その他
組織 委員は6名以上10名以内。知事が任命。
北海道医師会、北海道大学、札幌医科大学、旭川医科大学、北海道薬剤師会、北海道赤十字血液センター、北海道
年1回開催

2007-9-13 平成19年度全国合同輸血療法委員会成果報告会 3

平成15年度血液製剤使用に係わる懇談会 平成16年3月

- 平成15年度の取り組み状況
血液製剤使用実態調査の実施
血液製剤適正使用研修会の実施
血液製剤適正使用に関する啓発
血液製剤使用に係わる懇談会の開催
平成16年度の取り組み(案)
血液製剤使用実態調査の実施
医療関係者を対象とした研修会の実施
血液製剤適正使用に関する啓発
血液製剤使用に係わる懇談会の開催

2007-9-13 平成19年度全国合同輸血療法委員会成果報告会 4

平成16年度血液製剤使用に係わる懇談会 平成17年3月

- 平成16年度の取り組み状況
血液製剤使用実態調査の実施
血液センター、薬品卸の供給実績調査
国における血液使用適正使用推進について
平成17年度の取り組み(案)
輸血療法委員会等の設置状況調査
輸血療法委員会等の設置に関する働きかけ
輸血療法委員会の組織及び取り組み内容に関する検討
血液製剤の適正使用推進に係る先進事例など調査について
血液製剤使用実態調査の実施
血液製剤使用に係わる懇談会の開催

2007-9-13 平成19年度全国合同輸血療法委員会成果報告会 5

(仮称)北海道合同輸血療法委員会の設立に向けて 平成17年7月

A 合同輸血療法検討会の開催意義

Blank lines for text input under the heading 'A 合同輸血療法検討会の開催意義'.

2007-9-13 平成19年度全国合同輸血療法委員会成果報告会 6

平成17年度血液製剤使用に係わる懇談会 平成18年3月20日

- 平成17年度における血液製剤適正使用の取組状況について
 - 血液製剤適正使用に係るアンケートの実施
平成17年12月～3月
20床以上の医療機関578施設を対象。
515施設から回答(回答率:89.1%)
 - 血液製剤適正使用に関する啓発
100床以上の医療機関に血液製剤調査機構だよりを送付
啓発用リーフレットを配布
国からの通知を医療機関に周知
 - 血液製剤使用に係わる懇談会の開催
 - 医療機関別供給量調査
合同輸血療法委員会開催の基礎資料を作成

2007-9-13 平成19年度全国合同輸血療法委員会成果報告会 7

平成17年度血液製剤使用に係わる懇談会 平成18年3月20日

- 平成18年度における血液製剤適正使用の取り組み(案)
 - 輸血療法委員会等設置に関する働きかけ
アンケート結果の送付時に、輸血療法委員会の設置及び適正使用の推進について通知
医療監視にあわせて実施
 - 合同輸血療法委員会(仮称)の開催
 - 血液製剤適正使用に関する啓発
100床以上の医療機関に血液製剤調査機構だよりを送付
 - 血液製剤使用に係わる懇談会の開催

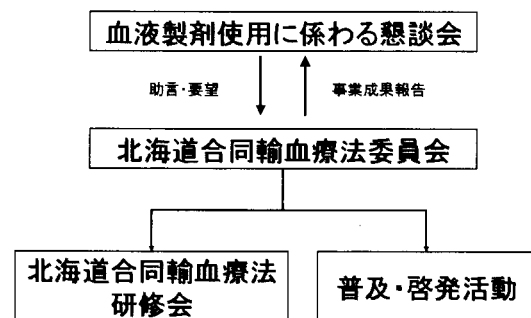
2007-9-13 平成19年度全国合同輸血療法委員会成果報告会 8

北海道合同輸血療法委員会

- 目的
 - 医療機関における血液製剤の適正使用を図るため、院内の製剤を管理し、使用するための体制を整備する。
- 組織
 - 北海道が依頼する輸血療法委員会を設置する病院の代表者、北海道赤十字血液センター、北海道の職員
- 活動内容
 - 医療機関における適正使用に係る研修会を年1回以上開催
医療機関における輸血療法委員会の設置状況や効果的な血液製剤適正化への取組などの把握
組織的かつ効果的な血液製剤適正化の推進
適正な輸血療法に関する普及・啓蒙活動

2007-9-13 平成19年度全国合同輸血療法委員会成果報告会 9

北海道合同輸血療法委員会の組織



2007-9-13 平成19年度全国合同輸血療法委員会成果報告会 10

平成18年度北海道合同輸血療法研修会開催要項

- 目的
 - 北海道合同輸血療法委員会要綱により、道内の医療機関における血液製剤の適正使用に係る積極的な取り組みを共有することを目的に効果的な適正化推進方策の普及を図るための研修会を開催し、参加医療機関における輸血療法委員会設置率の向上に努める。
- 主催
 - 北海道合同輸血療法委員会
- 後援
 - 北海道、北海道赤十字血液センター、北海道医師会、北海道薬剤師会、北海道病院薬剤師会、北海道臨床衛生検査技師会、日本輸血学会北海道支部会

2007-9-13 平成19年度全国合同輸血療法委員会成果報告会 11

平成18年度北海道合同輸血療法研修会

- 研修会(座長:北海道大学病院輸血部副部長 佐藤典宏)
 - (1)「血液製剤適正使用に係るアンケート調査の集計結果について」
北海道保健福祉部保健医療局医務業務課主査 吉野邦夫
 - (2)「輸血療法の実施に関する指針について」
旭川医科大学病院臨床検査・輸血部副部長 紀野修一
 - (3)「北海道における血液事業の現況」
北海道赤十字血液センター所長 池田久實
 - (4)「血液製剤適正使用の今後の展望について」
厚生労働省医薬食品局血液対策課長補佐 武末文男
- 特別講演(座長:北海道赤十字血液センター所長 池田久實)
 - ※日本輸血学会北海道支部会との合同主催
 - 「ガンマグロブリン製剤の使用状況に関する全国調査」
愛知医科大学病院輸血部助教授 加藤栄史
- 輸血関連体制と血液製剤使用に関するアンケート(2回目)の配布

2007-9-13 平成19年度全国合同輸血療法委員会成果報告会 12

平成18年度北海道合同輸血療法研修会

現在ほぼ恒時的に使用
エリテンス®の強固

案内通知施設数 149施設
前年度のアンケート調査で輸血療法委員会のある施設
前年度の血液供給実績が2000単位以上の病院
当日参加施設 99施設
当日参加者 151名 医師34名、臨床検査技師21名、薬剤師30名、看護師他6名

2007-9-13 平成19年度全国合同輸血療法委員会成果報告会 13

啓発事業

第86回 北海道外科学会

日 期 平成19年2月13日(土) 9:00~15:23
会 場 札幌医科大学 臨床教育研究棟

診療のトピックス 11:40 13:00 (第1会場 講堂)
旭川医科大学 輸血部
講師 紀野 修
「血液製剤の使用指針について」
札幌医科大学 第291 平田 公一

輸血療法の実施に関する指針・血液製剤の使用指針のポケット版を
北海道赤十字血液センターの協力で配布 150部

2007-9-13 平成19年度全国合同輸血療法委員会成果報告会 14

一度は目を通しましょう!!

臨床診療科医師

「輸血療法の実施に関する指針」(改定版)
及び
「血液製剤の使用指針」(改定版)

平成17年9月

● 赤十字血液センターから無償で配布。

血液製剤の使用指針

- 最低限、要約は読む
- 慣習的に行ってきた血液製剤の使用法には、全く根拠がないことを理解する
- 不適切な使用の殆どは、医師の気持ちや落ち着けるための安定剤の働きしかない
- 気休めの悪しき慣習は一気には変えられないので、少しずつ指針に沿うように努力する

2007-9-13 平成19年度全国合同輸血療法委員会成果報告会 15

アンケート集計結果

2007-9-13 平成19年度全国合同輸血療法委員会成果報告会 16

平成18年度血液製剤使用適正化方策調査研究

● 評価事業

- 平成18年度の医療監視時にアンケート調査を実施し、輸血療法委員会の組織率、実施回数、使用量について把握するとともに、前年度アンケート結果と比較を行う。特に、2,000単位以上の血液製剤を使用する病院の状況を中心に調査する。

2000単位以上の輸血用血液製剤供給施設を中心にまとめ

2007-9-13 平成19年度全国合同輸血療法委員会成果報告会 17

北海道の輸血用血液製剤供給状況 平成17年度

北海道赤十字血液センター提供

	全供給数(単位)	使用量	
		1000単位以上	2000単位以上
RCC	375,497	302,667 (80.6%)	272,645 72.6%
FFP	180,426	169,861 (94.1%)	160,567 (88.9%)
PC	518,080	499,235 (96.3%)	483,280 (93.2%)
全製剤	1,074,003	971,763 (90.4%)	916,492 (85.3%)

2007-9-13 平成19年度全国合同輸血療法委員会成果報告会 18

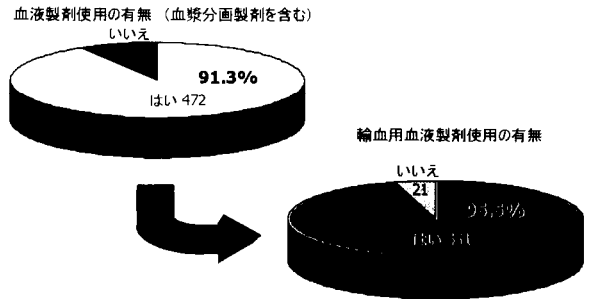
血液製剤適正使用に係るアンケート調査 平成17年度

- アンケート調査のねらい
 - 輸血関連体制の設置状況把握
 - 輸血部門の設置
 - 輸血療法委員会の設置
 - 輸血責任医師の配置
 - 各施設における血液製剤使用量の把握
 - あえて実数を記載して貰うことほしない
 - 「血液製剤の平均的使用量について」を添付し、自己の置かれる位置を知って貰うことを主眼に
- アンケート調査の対象
 - 道内のすべての20床以上の病院
(精神科を単独標榜している病院など、血液製剤を使用していないと考えられる病院を除く)
 - 全道の病院数(平成18年6月1日現在) 617施設
 - アンケート実施病院数 578施設
 - アンケート回収数 517施設
 - 回収率 89.4%

2007-9-13 平成19年度全国合同輸血療法委員会成果報告会 19

血液製剤使用の有無(血漿分画製剤を含む)

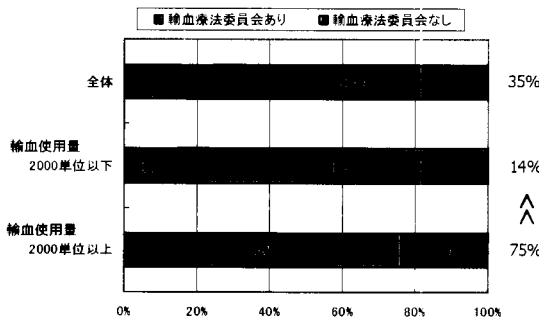
血液製剤適正使用に係るアンケート調査 平成17年度



2007-9-13 平成19年度全国合同輸血療法委員会成果報告会 20

輸血療法委員会の設置の有無

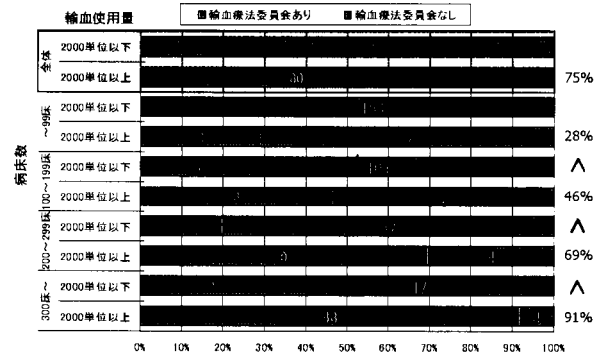
血液製剤適正使用に係るアンケート調査 平成17年度



2007-9-13 平成19年度全国合同輸血療法委員会成果報告会 21

輸血療法委員会組織率:病院規模・輸血使用量別

血液製剤適正使用に係るアンケート調査 平成17年度



2007-9-13 平成19年度全国合同輸血療法委員会成果報告会 22

輸血療法委員会等で検討された項目

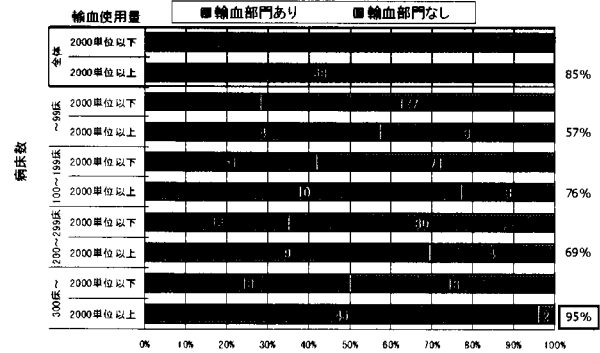
血液製剤適正使用に係るアンケート調査 平成17年度

	全体	2000単位以上	2000単位以下
施設数	115施設	60施設	55施設
検討項目			
適正使用	82.6%	91.6%	> 72.7%
廃棄対策	66.1%	81.6%	> 49.0%
自己血輸血実施手順	53.0%	78.3%	> 25.4%
輸血実施手順	81.7%	83.3%	> 74.5%
ヒヤリハット事例対策	39.1%	48.3%	> 29.0%
適及調査対策	56.5%	71.6%	> 40.0%
その他	15.7%	16.6%	= 14.5%

2007-9-13 平成19年度全国合同輸血療法委員会成果報告会 23

輸血部門組織率:病院規模・輸血使用量別

血液製剤適正使用に係るアンケート調査 平成17年度



2007-9-13 平成19年度全国合同輸血療法委員会成果報告会 24

輸血部門の業務

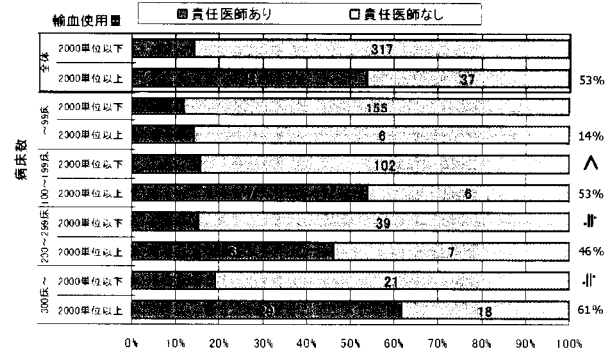
血液製剤適正使用に係るアンケート調査 平成17年度

	全体	2000単位以上	2000単位以下
施設数	197施設	68施設	129施設
実施業務			
一元管理の実施	65.6 %	83.8 %	> 72.7 %
委員会検討事項の実施	39.0 %	72.0 %	> 49.0 %
診療科別統計の報告	34.0 %	58.8 %	> 25.4 %
輸血関連情報の周知	67.0 %	75.0 %	≒ 74.5 %

2007-9-13 平成19年度全国合同輸血療法委員会成果報告会 25

輸血責任医師の任命:病院規模・輸血使用量別

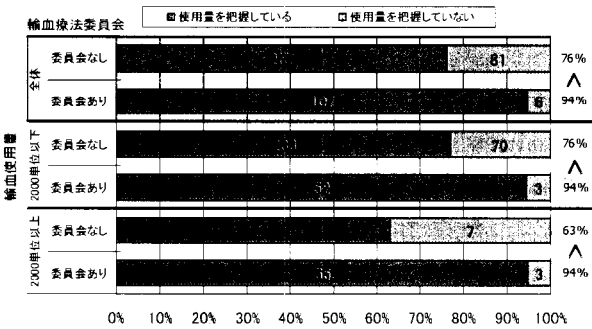
血液製剤適正使用に係るアンケート調査 平成17年度



2007-9-13 平成19年度全国合同輸血療法委員会成果報告会 26

過去3年間の輸血使用量把握

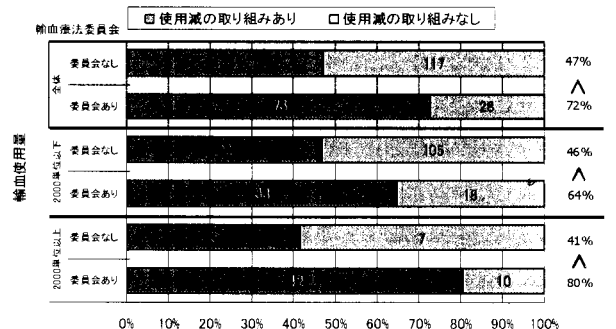
血液製剤適正使用に係るアンケート調査 平成17年度



2007-9-13 平成19年度全国合同輸血療法委員会成果報告会 27

使用量削減に対する取り組み

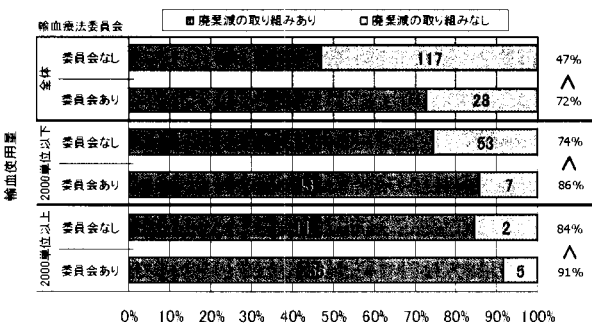
血液製剤適正使用に係るアンケート調査 平成17年度



2007-9-13 平成19年度全国合同輸血療法委員会成果報告会 28

輸血廃棄削減に対する取り組み

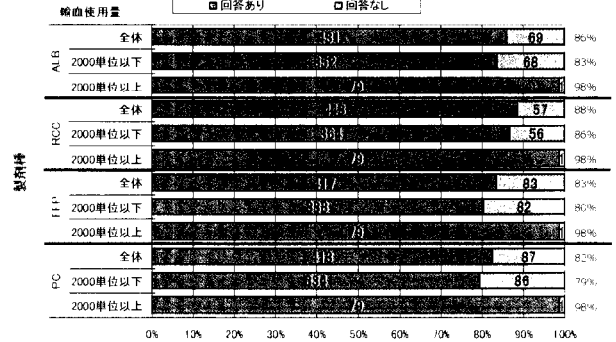
血液製剤適正使用に係るアンケート調査 平成17年度



2007-9-13 平成19年度全国合同輸血療法委員会成果報告会 29

平均的使用量に対する回答

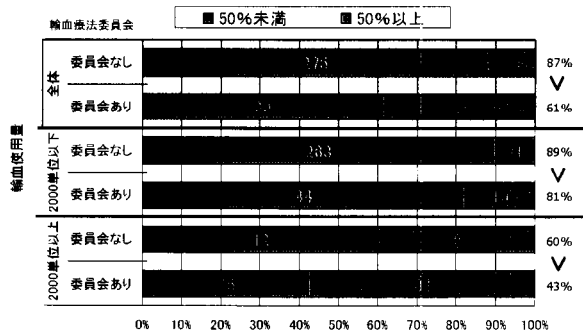
血液製剤適正使用に係るアンケート調査 平成17年度



2007-9-13 平成19年度全国合同輸血療法委員会成果報告会 30

アルブミンの使用量：平均的使用量調査と比較

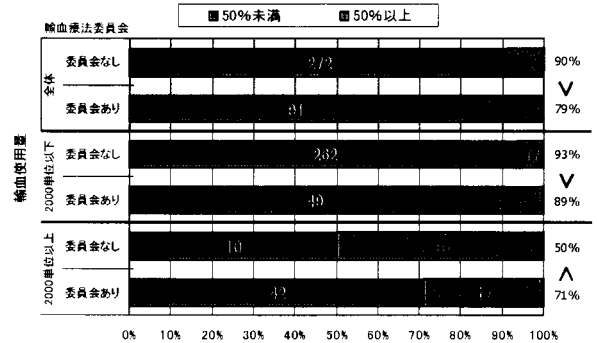
血液製剤適正使用に係るアンケート調査 平成17年度



2007-9-13 平成19年度全国合同輸血療法委員会成果報告会 31

FFPの使用量：平均的使用量調査と比較

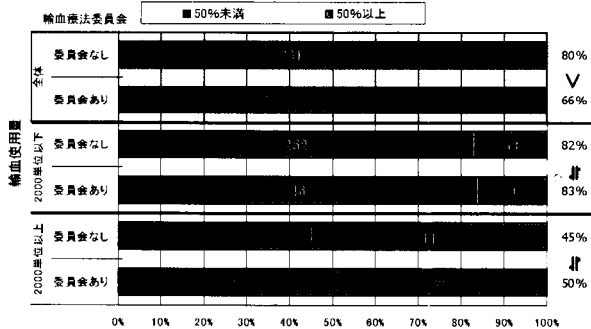
血液製剤適正使用に係るアンケート調査 平成17年度



2007-9-13 平成19年度全国合同輸血療法委員会成果報告会 32

RCCの使用量：平均的使用量調査と比較

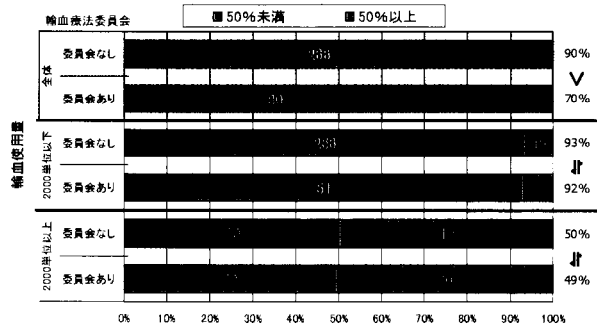
血液製剤適正使用に係るアンケート調査 平成17年度



2007-9-13 平成19年度全国合同輸血療法委員会成果報告会 33

PCの使用量：平均的使用量調査と比較

血液製剤適正使用に係るアンケート調査 平成17年度



2007-9-13 平成19年度全国合同輸血療法委員会成果報告会 34

平成17年度と平成18年度の比較：輸血療法委員会

2000単位以上供給施設

	平成17年度	平成18年度
回答施設数	80施設	81施設
輸血療法委員会あり	60 (75.0%)	65 (80.2%)
検討事項		
適正使用	55 (91.6%)	57 (87.6%)
廃棄対策	49 (81.6%)	52 (80.0%)
自己血	47 (78.3%)	48 (73.8%)
輸血手順	53 (83.3%)	56 (86.1%)
ヒヤリハット	29 (48.3%)	37 (56.9%)
週及調査	43 (71.6%)	43 (66.1%)
その他	10 (16.6%)	14 (21.5%)
議事録	57 (95.0%)	64 (98.4%)

2007-9-13 平成19年度全国合同輸血療法委員会成果報告会 35

平成17年度と平成18年度の比較：輸血部門

2000単位以上供給施設

	平成17年度	平成18年度
回答施設数	80施設	81施設
輸血部門あり	68 (85.0%)	65 (80.2%)
業務		
一元管理	57 (83.8%)	55 (84.6%)
委員会検討事項の実施	49 (72.0%)	53 (81.5%)
診療科別統計	40 (58.8%)	48 (73.8%)
情報の周知	51 (75.0%)	59 (90.7%)

2007-9-13 平成19年度全国合同輸血療法委員会成果報告会 38

平成17年度と平成18年度の比較：責任医師

2000単位以上供給施設

回答施設数	平成17年度	平成18年度
	80施設	81施設
責任医師あり	43 (53.7%)	< 54 (66.6%)
業務		
輸血部門を实地に監督	15 (34.8%)	15 (27.7%)
輸血業務の監督と責任	38 (88.3%)	45 (83.3%)
コンサルテーション	13 (30.2%)	25 (46.2%)

2007-9-13 平成19年度全国合同輸血療法委員会成果報告会 37

平成17年度と平成18年度の比較：適正使用

2000単位以上供給施設

回答施設数	平成17年度	平成18年度
	80施設	81施設
血液製剤使用量把握あり	67 (83.7%)	< 72 (88.8%)
使用量削減の取組あり	47 (58.7%)	< 56 (69.1%)
廃棄削減の取組あり	66 (82.5%)	> 63 (77.7%)
平均的使用量調査 50%未満		
アルブミン	37 (46.8%)	≒ 37 (48.0%)
RCC	39 (49.3%)	> 32 (41.0%)
FFP	52 (65.8%)	≒ 50 (64.1%)
PC	39 (49.3%)	≒ 39 (50.0%)

2007-9-13 平成19年度全国合同輸血療法委員会成果報告会 39

アンケートのまとめ(1)：管理体制整備

- 輸血療法委員会
 - * 供給量2000単位以上の施設の輸血療法委員会の組織率は75%。
 - * 病床数が多いほど組織率は高い。
- 輸血部門
 - * 供給量2000単位以上の施設の輸血部門設置率は85%。
 - * 300床以上の施設では95%が設備されている。
- 責任医師
 - * 供給量2000単位以上の施設の責任医師任命率は53%
 - * 100床以上の施設では、任命率はほぼ一定(病床数による変動はない)
- 2年間の比較では (2000単位以上供給施設)
 - * 輸血療法委員会組織率 改善
 - * 輸血部門設置率 悪化?
 - * 責任医師の任命率 改善

2007-9-13 平成19年度全国合同輸血療法委員会成果報告会 39

アンケートのまとめ(2)：輸血療法委員会の機能

- 輸血療法委員会があると
 - * 輸血使用量を把握している
 - * 使用量削減に取り組んでいる
 - * 廃棄削減に取り組んでいる
- 輸血療法委員会のある施設が
 - * 血液製剤の平均的使用量の50%値をクリアしているわけではない。
アルブミン>RCC≒PC>>FFP

2007-9-13 平成19年度全国合同輸血療法委員会成果報告会 40

アンケートのまとめ(3)：浮かび上がる課題

- 各施設の輸血療法委員会では様々な取り組みがなされているが、それらの取り組みは血液製剤使用現場まで届いていない可能性がある
 - * 委員会→診療科→医師?
- 個々の医師に対する啓発活動として、院内の研修会や地方学会などの講演が有用である可能性がある
 - * 研修会・講演会→講演者→医師
- 三者(道庁・血液センター・病院)による取り組みが始まってから日が浅いため、アンケート調査結果からは適正使用推進についての明らかな成果は見いだせない。しかし、合同輸血療法研修会の開催や地方学会における啓発活動などの取り組みを続けることは、適正使用推進に意義があると思われる。

2007-9-13 平成19年度全国合同輸血療法委員会成果報告会 41

本研究で達成されたこと

- アンケート調査
 - * 北海道の医療機関における輸血管理体制、血液製剤の使用実態を初めて知ることができた。
 - * 血液製剤の平均的使用量調査の内容を盛り込むことで、各医療機関に自身の使用実態がどの程度のものかを知って貰う機会ができた(有用な通知を周知徹底することができた)。
- 北海道合同輸血療法研修会
 - * 輸血療法委員会を組織している施設や年間2000単位以上供給されている施設をターゲットとした適正使用啓発の場ができた(90施設、151名参加)。
 - * 行政から開催通知が出されることで、各施設における合同輸血療法委員会参加への意義付けが高まった。
- 地方学会での講演
 - * 血液製剤を実際に使用する医師に対して、直接的に啓発活動ができた。

2007-9-13 平成19年度全国合同輸血療法委員会成果報告会 42

合同輸血療法委員会を成功させるために

- 運営組織には、行政・血液センター・病院の三者が必ず参画する
- 診療現場で輸血医療に関わる医師を取りこむ
 - 病院輸血部医師
 - 輸血・細胞治療学会認定医の資格を持つ医師
 - 普段から輸血を扱う外科医または麻酔科医
 - 輸血医療に興味を持っている医師(輸血責任医師) など
- 考慮すべき事項
 - 参加要請施設の絞り込み
 - 研修会の内容
 - 予算?
 - 事業の効果判定法
 - 各施設間でのディスカッションの場の確保
 - その他

2007-9-13 平成19年度全国合同輸血療法委員会成果報告会 43

平成18年度血液製剤使用に係わる懇談会 平成19年3月20日

- 報告事項
 - 平成18年の献血状況について
 - 平成18年度における血液製剤適正使用推進の取り組み状況について
 - 血液製剤適正使用に係るアンケート調査結果について
- 協議事項
 - 平成19年度における血液製剤適正使用の取り組みについて
 - 北海道合同輸血療法委員会のメンバー拡充
 - 平成19年度北海道合同輸血療法研修会の開催
 - 血液製剤適正使用に関する啓発
 - 血液製剤使用に係わる懇談会の開催

2007-9-13 平成19年度全国合同輸血療法委員会成果報告会 44